



## 地域交流活動かわら版

## 防災ワークショップ「そなえるドリルから地域防防災を考えよう！」を開催

9月20日(金)に、杏林大学と三菱地所レジデンス株式会社が共催し、防災ワークショップ「そなえるドリルから地域防防災を考えよう！」を開催しました。この企画は、総合政策学部 三浦秀之先生が、三菱地所グループ防災倶楽部として活動する岡崎新太郎氏に働きかけて実施され、大学近隣の三鷹市民を含む総勢39名が参加しました。

当日は、三菱地所レジデンス株式会社が開発した親子で防災を考えるツール「そなえるドリル」を利用して、本学井の頭キャンパス周辺の三鷹市下連雀6丁目8丁目防災連絡会やその関係の方、三菱地所グループ防災倶楽部、津田沼奏の杜防災委員会、学校法人自由学園、本学学生、教職員が6つのグループに分かれ、防災を身近にとらえ、普段から備えができていかどうか確認し合い、対処方法を考えていきました。

これをきっかけとして、今後、本学総合政策学部GCP\*の学生が三菱地所レジデンス株式会社と協業して「そなえるドリル」の英訳に取り組んでいくこととしています。

注\*GCP…グローバルに活躍できるビジネスパーソンを育成するために総合政策学部が導入した育成プログラムGlobal Career Programの略



## 総合政策学部 総合政策学科1年 岩坂 公陽さん

## 参加学生より

今回のワークショップは自分自身の防災対策が甘かったことを改めて考え直すいい機会でした。東京に住んでいると地方に比べて災害も少ない分どうしても準備を疎かにする傾向があると思います。普段の会話では話題に上がりにくいテーマについて、このような貴重な機会を通じて三菱地所レジデンスの方々、そして地域住民の方々とディスカッションできたことは素晴らしい経験になりました。

## 総合政策学部 総合政策学科1年 齋藤 稜介さん

前期の授業で三鷹市や、武蔵野市の防災について考える機会がありました。しかし、実際にその地域に住んでいる人にとって交流する機会というのは無く、そこに住んでいるからこそ言える意見があり、新しい発見があって自分の視野が広がったと思います。

## ディスアビリティを持つ子どもたちと大人たちのコンサート

## 『音楽仲間はハートフル』が開催されました

9月23日(月・祝)に、保健学部臨床心理学科 中島亨先生が携わる演奏会『音楽仲間はハートフル』が開催されました。このイベントは2年に1度実施され、自閉スペクトラム症を中心とする障がいを持つ大人と子どもたちが演奏を行うというものです。今回も、15年以上演奏会に出演している方(20代)から初心者の方まで、歌・ピアノ・電子オルガン・ドラムとのアンサンブル等、それぞれがエネルギー溢れる音楽を披露しました。また、運営スタッフの補助アルバイトとして、5名の本学学生が参加しました。演奏者や裏方のスタッフ、観客が一体となって、演奏会を作り上げ、音楽に心動かされました。

注\*自閉スペクトラム症…一定の幅(スペクトラム)をもった疾患群と考えられており、種類や重症度の点で非常に多様です。持って生まれた特性に対して、一人ひとりに合わせた教育的方法を用いた支援(療育)によって、生活の支障を少なくすることができます。

## 保健学部 看護学科 看護養護4年 岩谷 玲美さん

## 参加学生より

演奏を聴いて、みんな自分の音楽を楽しんでいて、音からものすごい力を感じ、自然と引き込まれていきました。穏やかな曲、ドラムを使った激しい曲など様々な曲があったが特に印象に残っているのは、エレクトーンでの「サライ」です。ゆっくりでリズムをとるのが難しい中、必死に一つ一つ鍵盤を押す姿に涙が出ました。そして、ドアの前で警備をしている時、演奏後客席へ戻るみんなの顔を見ると「やりきた。」といった表情をしていて、聴いている人に感動を与えるだけでなく、人前で演奏することで児者自身の自尊感情も高まり、改めて音楽の素晴らしさを感じました。



# 羽村市にて連携事業研修会 「アンガーマネジメント～気になる子への対応について～」を実施

9月26日(木)羽村市にて、本学保健学部臨床心理学科 櫻井未央先生が講師を務め、学童クラブや児童館の職員の方々に対象に、「アンガーマネジメント」に関する研修会を実施しました。学童クラブや児童館などでは、複数子どもたちを同時に対応するための受容力や判断力、行動力が求められます。今回の講演が参加者のスキルアップにつながり、子どもたちの支援につながればと考えています。

## 保健学部臨床心理学科 櫻井 未央先生より

前期学童クラブ、児童館、放課後児童教室の約40名の方々に  
お集まりいただき、対応に苦慮されている子どもたちの行動についてアンガーマネジメントの観点からお話ししました。子どもたちの放課後や余暇の時間は、異年齢集団間の貴重な育ち合いの時間でもあり、それを見守るスタッフの方々には、**一つひとつの行動がどのような意味を持つのか、こころが育つというプロセスを促進させるのはどんなことか**を考える機会にさせていただけたかと思えます。



当日の講義内容は…

## 地域へ広げよう、学びの現場から～ライティングセンターへようこそ～

本学のライティングセンターは、ネイティブの大学教員や訓練を受けたピア・チューターから、自分で作成した課題などの英文についてフィードバックを受けることができる学習施設です。利用者は学部生だけではなく、連携する高校の生徒や社会人講座受講生まで、多岐にわたります。そこで今回は、センターを利用する社会人講座「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の履修生と指導を行うジェイソン先生にお話しを伺いました。

### 「地域活性化コーディネーター養成プログラム」履修生 森田 和元さん

BP履修生として、様々な分野の授業を受けるとともに他の地域社会の方々とも知り合うことができ充実したキャンパス生活です。さらに図書館で新聞や本を拝見させてもらっているほか、ライティングセンターで英文のチェックもしてくれることを知り、**仕事に必要な英文のリファインをお願いしたいところがある**と、Google翻訳などの翻訳ソフトを使っていても、**細かい言い回しのところがネイティブの人から見ると違和感があるかもしれない**という不安が残っていました。ジェイソン先生のチェックで、**ネイティブでなければ判断できないところがいくつも見付き、大変貴重な学習の機会だとありがたく思いました。**

こんな感じで  
英文作成のサポートを  
しています



### ライティングセンター Jason Somerville (ジェイソン・サマービル) 先生

Kyorin Writing Center (KWC) mainly provides support to students from all university faculties. All students that require help with their written English are welcome in the KWC.

In addition, the KWC supports the administrative and academic staff at Kyorin. All staff are welcome to receive help and guidance to improve their English writing skills.

It is important for the local community to feel part of Kyorin University, and our life-long learners are always welcome to use the facilities in the KWC. Many life-long learners come to the KWC to receive help with their outside activities which are written English.

The goal of the KWC is for all university students, staff, and life-long learners to play an active role in the help that they receive from in the KWC. It is important for all visitors to the KWC to leave with a sense of achievement and community.

### 【和訳】

Kyorin杏林ライティングセンター(KWC)は、全学部の学生を主に支援しています。英語を書く上で手助けを求める全ての学生は、KWCに喜んで迎えます。

加えて、KWCは杏林の教職員もサポートします。すべての教職員が英語のライティングスキルを向上させる手助けと指導を受けることを歓迎します。

地域住民にとって、杏林大学の一員だと感じることは重要なことで、杏林の社会人講座受講生は、KWCをいつでも利用することができます。多くの社会人講座受講生は、英語を書く課外活動のサポートを受けるためにKWCを訪れます。

KWCの最終目標は、学生、教職員、社会人講座受講生を、KWCにおいて積極的にサポートすることです。KWCを訪れるすべての人が、達成感とコミュニティへの帰属を感じられることが重要だと考えています。

★学びを得た利用者が、地域や幅広い活動の中で役立てていくことが期待されます。